

パネルディスカッション
「子どもたちの多様性が生きることばの教育
ー社会的包摂を目指してー」

大阪における
外国につながる子ども・若者への
ことばの教育実践

本資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

自己紹介

山田 文乃(やまだ あやの) 大阪生まれ大阪育ち

◆ 大阪市教育公務員生活 23年間 7校で勤務

学校教育

- ・ 小学校教員 海遊館・USJ・通天閣・黒門市場・ミナミ・・・
- ・ 在外教育施設 スラバヤ日本人学校

教育行政

- ・ 大阪市小学校教育研究会 国際理解教育部
- ・ 日本語指導加配校での日本語指導
- ・ 大阪市多文化共生教育相談ルーム
- ・ 大阪市教育委員会指導部 人権・国際理解教育 指導主事

社会教育

- ◆ NPO法人IKUNO・多文化ふらっと 外国につながる若者支援事業
- ◆ 立命館大学 産業社会学部 初等教職課程支援担当嘱託講師
- ◆ 社会福祉士/日本語教育能力検定試験 合格

1. 大阪市のニューカマーへの日本語指導 その制度的枠組と支援の流れ



「大阪における外国につながる子ども・若者へのことばの教育実践」

大阪市の義務教育段階における日本語指導推進の根拠

大阪市教育委員会事務局

「外国につながる児童生徒の受入れ・共生のための教育推進事業」

「帰国・来日する児童生徒数が増加するとともに多国籍化するなかで、外国につながる児童生徒に対して、日本語指導及び適応指導並びに、母語・母文化を保障するための取組を行うとともに、多様な価値観や文化をもつ子ども同士が相互に高め合う多文化共生教育を推進」する事業

3つの柱

日本語指導の保障

母語・母文化の保障

多文化共生教育の推進

支援フローチャート

子どもの学年及び在籍校により、
受けることができる日本語指導の
場所・期間・指導内容が異なる。

大阪市における日本語指導が必要な子どもの学習支援フローチャート

編転入決定後、学校から教育委員会への電話連絡を受けて・・・

①初期面談対応

保護者・児童生徒・在籍校管理職・在籍校関係教職員・指導主事・通訳・
(小4～中3:センター校担当教員)
⑬ 在籍校

申請書提出

②プレクラス

⑬ 小1～中3の児童生徒 ※通級方法等、保護者の同意を得て、入級を決定。
⑭ 一日5単位時間 連続10日間 合計50単位時間
⑮ 共生支援拠点(各ブロックに1つ)
⑯ プレクラス日本語指導員/プレクラス母語支援員

※プレクラスに参加しない場合次のステップから学習を始める。

申請書提出

申請書提出

③日本語指導 協力者による支援

⑬ 小1～3年生の児童
⑭ 週2回/全25単位時間
⑮ 在籍校にて抽出学習
⑯ 日本語指導協力者と
在籍校教員による TT

④日本語指導 教育センター校通級

⑬ 小4～中3の児童生徒
⑭ 週1～2回/半年～1年程度
⑮ 通級による学習
⑯ センター校担当教員

⑤日本語指導 加配校

⑬ 加配校の在籍児童生徒
⑭ 学校による
⑮ 在籍校の教室
⑯ 加配校教員

申請書提出

⑥JSLカリキュラム日本語指導員/ 教科における母語支援員による支援

⑬ 小5～中3の児童生徒
⑭ 週2回/最大年間64回(128単位時間)
⑮ 在籍校にて抽出・入り込み学習
⑯ JSL日本語指導員/教科における母語支援員

初期面談対応

日本の学校文化になじみがなく
日本語によるコミュニケーション
に課題を抱える子どもがいる家
庭に対して、今後の日本語指導
も含めた学校教育の方針につい
て話し合う。

対象：保護者、児童生徒、
在籍校管理職・教職員、
指導主事、通訳等
場所：在籍校内

大阪市における日本語指導が必要な子どもの学習支援フローチャート

編転入決定後、学校から教育委員会への電話連絡を受けて・・・

①初期面談対応

保護者・児童生徒・在籍校管理職・在籍校関係教職員・指導主事・通訳・
(小4～中3:センター校担当教員)

場 在籍校

申請書提出

②プレクラス

- 対 小1～中3の児童生徒 ※通級方法等、保護者の同意を得て、入級を決定。
- 回 一日5単位時間 連続10日間 合計50単位時間
- 場 共生支援拠点(各ブロックに1つ)
- 担 プレクラス日本語指導員/プレクラス母語支援員

※プレクラスに参加しない場合次のステップから学習を始める。

申請書提出

申請書提出

③日本語指導 協力者による支援

- 対 小1～3年生の児童
- 回 週2回/全25単位時間
- 場 在籍校にて抽出学習
- 担 日本語指導協力者と
在籍校教員によるTT

④日本語指導 教育センター校通級

- 対 小4～中3の児童生徒
- 回 週1・2回/半年～1年程度
- 場 通級による学習
- 担 センター校担当教員

⑤日本語指導 加配校

- 対 加配校の在籍児童生徒
- 回 学校による
- 場 在籍校の教室
- 担 加配校教員

申請書提出

⑥JSLカリキュラム日本語指導員/ 教科における母語支援員による支援

- 対 小5～中3の児童生徒
- 回 週2回/最大年間64回(128単位時間)
- 場 在籍校にて抽出・入り込み学習
- 担 JSL日本語指導員/教科における母語支援員

プレクラスの実施

対象：小1～中3の児童生徒

回数：一日5単位時間

連続10日間

合計50単位時間

場所：共生支援拠点
(各教育ブロックに1つ)

担当：プレクラス日本語指導員/プレクラス母語支援員

※通級方法等、保護者の同意を得て、入級を決定。

大阪市における日本語指導が必要な子どもの学習支援フローチャート

編転入決定後、学校から教育委員会への電話連絡を受けて・・・

①初期面談対応

保護者・児童生徒・在籍校管理職・在籍校関係教職員・指導主事・通訳・
(小4～中3:センター校担当教員)

④在籍校

申請書提出

②プレクラス

④小1～中3の児童生徒 ※通級方法等、保護者の同意を得て、入級を決定。

④一日5単位時間 連続10日間 合計50単位時間

④共生支援拠点(各ブロックに1つ)

④プレクラス日本語指導員/プレクラス母語支援員

※プレクラスに参加しない場合次のステップから学習を始める。

申請書提出

申請書提出

③日本語指導

協力者による支援

④小1～3年生の児童

④週2回/全25単位時間

④在籍校にて抽出学習

④日本語指導協力者と
在籍校教員によるTT

④日本語指導

教育センター校通級

④小4～中3の児童生徒

④週1・2回/半年～1年程度

④通級による学習

④センター校担当教員

⑤日本語指導

加配校

④加配校の在籍児童生徒

④学校による

④在籍校の教室

④加配校教員

申請書提出

⑥JSLカリキュラム日本語指導員/
教科における母語支援員による支援

④小5～中3の児童生徒

④週2回/最大年間64回(128単位時間)

④在籍校にて抽出・入り込み学習

④JSL日本語指導員/教科における母語支援員

日本語指導協力者による支援

日本語指導について専門的な知識・経験をもつ「日本語指導協力者」が支援を行う。

対象：小1～小3の児童

回数：週2回

全25単位時間

場所：在籍校

担当：日本語指導協力者と在籍校教員によるTT

大阪市における日本語指導が必要な子どもの学習支援フローチャート

編入決定後、学校から教育委員会への電話連絡を受けて・・・

①初期面談対応

保護者・児童生徒・在籍校管理職・在籍校関係教職員・指導主事・通訳・
(小4～中3:センター校担当教員)

④在籍校

申請書提出

②プレクラス

④小1～中3の児童生徒 ※通級方法等、保護者の同意を得て、入級を決定。

④一日5単位時間 連続10日間 合計50単位時間

④共生支援拠点(各ブロックに1つ)

④プレクラス日本語指導員/プレクラス母語支援員

※プレクラスに参加しない場合次のステップから学習を始める。

申請書提出

申請書提出

③日本語指導 協力者による支援

- ④小1～3年生の児童
- ④週2回/全25単位時間
- ④在籍校にて抽出学習
- ④日本語指導協力者と在籍校教員によるTT

④日本語指導 教育センター校通級

- ④小4～中3の児童生徒
- ④週1・2回/半年～1年程度
- ④通級による学習
- ④センター校担当教員

⑤日本語指導 加配校

- ④加配校の在籍児童生徒
- ④学校による
- ④在籍校の教室
- ④加配校教員

申請書提出

⑥JSL カリキュラム日本語指導員/ 教科における母語支援員による支援

- ④小5～中3の児童生徒
- ④週2回/最大年間64回(128単位時間)
- ④在籍校にて抽出・入り込み学習
- ④JSL 日本語指導員/教科における母語支援員

日本語指導教育センター校

日本語指導が必要な児童生徒が通級し、日本語指導を受ける。通常の学校内に併設。

対象：小4～中3の児童生徒

回数：週1回 2時間程度

N5習得レベルまで

場所：日本語指導
教育センター校

担当：センター校担当教員

小学校8校 中学校8校

大阪市における日本語指導が必要な子どもの学習支援フローチャート

編転入決定後、学校から教育委員会への電話連絡を受けて・・・

①初期面談対応

保護者・児童生徒・在籍校管理職・在籍校関係教職員・指導主事・通訳・
(小4～中3:センター校担当教員)

④在籍校

申請書提出

②プレクラス

④小1～中3の児童生徒 ※通級方法等、保護者の同意を得て、入級を決定。

④一日5単位時間 連続10日間 合計50単位時間

④共生支援拠点(各ブロックに1つ)

④プレクラス日本語指導員/プレクラス母語支援員

※プレクラスに参加しない場合次のステップから学習を始める。

申請書提出

申請書提出

③日本語指導 協力者による支援

- ④小1～3年生の児童
- ④週2回/全25単位時間
- ④在籍校にて抽出学習
- ④日本語指導協力者と在籍校教員によるTT

④日本語指導 教育センター校通級

- ④小4～中3の児童生徒
- ④週1・2回/半年～1年程度
- ④通級による学習
- ④センター校担当教員

⑤日本語指導 加配校

- ④加配校の在籍児童生徒
- ④学校による
- ④在籍校の教室
- ④加配校教員

申請書提出

⑥JSLカリキュラム日本語指導員/ 教科における母語支援員による支援

- ④小5～中3の児童生徒
- ④週2回/最大年間64回(128単位時間)
- ④在籍校にて抽出・入り込み学習
- ④JSL日本語指導員/教科における母語支援員

日本語指導加配教員配置校

日本語指導の必要な児童生徒が概ね10名以上在籍する学校に、自校内で日本語指導ができるよう加配教員を配置し、指導に当たる。

対象：加配校の在籍児童生徒

回数：学校による

場所：校内の教室

取り出し及び入り込み

担当：加配教員

小学校8校 中学校3校

大阪市における日本語指導が必要な子どもの学習支援フローチャート

編転入決定後、学校から教育委員会への電話連絡を受けて・・・

①初期面談対応

保護者・児童生徒・在籍校管理職・在籍校関係教職員・指導主事・通訳・
(小4～中3:センター校担当教員)

④在籍校

申請書提出

②プレクラス

⑤小1～中3の児童生徒 ※通級方法等、保護者の同意を得て、入級を決定。

⑥一日5単位時間 連続10日間 合計50単位時間

⑦共生支援拠点(各ブロックに1つ)

⑧プレクラス日本語指導員/プレクラス母語支援員

※プレクラスに参加しない場合次のステップから学習を始める。

申請書提出

申請書提出

③日本語指導 協力者による支援

- ⑨小1～3年生の児童
- ⑩週2回/全25単位時間
- ⑪在籍校にて抽出学習
- ⑫日本語指導協力者と在籍校教員によるTT

④日本語指導 教育センター校通級

- ⑬小4～中3の児童生徒
- ⑭週1・2回/半年～1年程度
- ⑮通級による学習
- ⑯センター校担当教員

⑤日本語指導 加配校

- ⑰加配校の在籍児童生徒
- ⑱学校による
- ⑲在籍校の教室
- ⑳加配教員

申請書提出

⑥JSLカリキュラム日本語指導員/ 教科における母語支援員による支援

- ㉑小5～中3の児童生徒
- ㉒週2回/最大年間64回(128単位時間)
- ㉓在籍校にて抽出・入り込み学習
- ㉔JSL日本語指導員/教科における母語支援員

JSLカリキュラム/教科における支援

初期日本語指導が一定修了した児童生徒を対象に、教科学習における理解を促進するため、学習言語能力の向上をめざす。

対象：小5～中3の児童生徒

回数：1回2時間 週2回

最大年間30回

場所：在籍校の教室

取り出し及び入り込み

担当：JSLカリキュラム日本語指導員及び教科における母語支援員

大阪市における日本語指導が必要な子どもの学習支援フローチャート

編入決定後、学校から教育委員会への電話連絡を受けて・・・

①初期面談対応

保護者・児童生徒・在籍校管理職・在籍校関係教職員・指導主事・通訳・
(小4～中3:センター校担当教員)

④在籍校

申請書提出

②プレクラス

④小1～中3の児童生徒 ※通級方法等、保護者の同意を得て、入級を決定。

④一日5単位時間 連続10日間 合計50単位時間

④共生支援拠点(各ブロックに1つ)

④プレクラス日本語指導員/プレクラス母語支援員

※プレクラスに参加しない場合次のステップから学習を始める。

申請書提出

申請書提出

③日本語指導 協力者による支援

- ④小1～3年生の児童
- ④週2回/全25単位時間
- ④在籍校にて抽出学習
- ④日本語指導協力者と
在籍校教員によるTT

④日本語指導 教育センター校通級

- ④小4～中3の児童生徒
- ④週1・2回/半年～1年程度
- ④通級による学習
- ④センター校担当教員

⑤日本語指導 加配校

- ④加配校の在籍児童生徒
- ④学校による
- ④在籍校の教室
- ④加配校教員

申請書提出

⑥JSLカリキュラム日本語指導員/ 教科における母語支援員による支援

- ④小5～中3の児童生徒
- ④週2回/最大年間64回(128単位時間)
- ④在籍校にて抽出・入り込み学習
- ④JSL日本語指導員/教科における母語支援員

2. 大阪市の外国につながる子どもへの 「母語」保障の歴史的変遷と現状

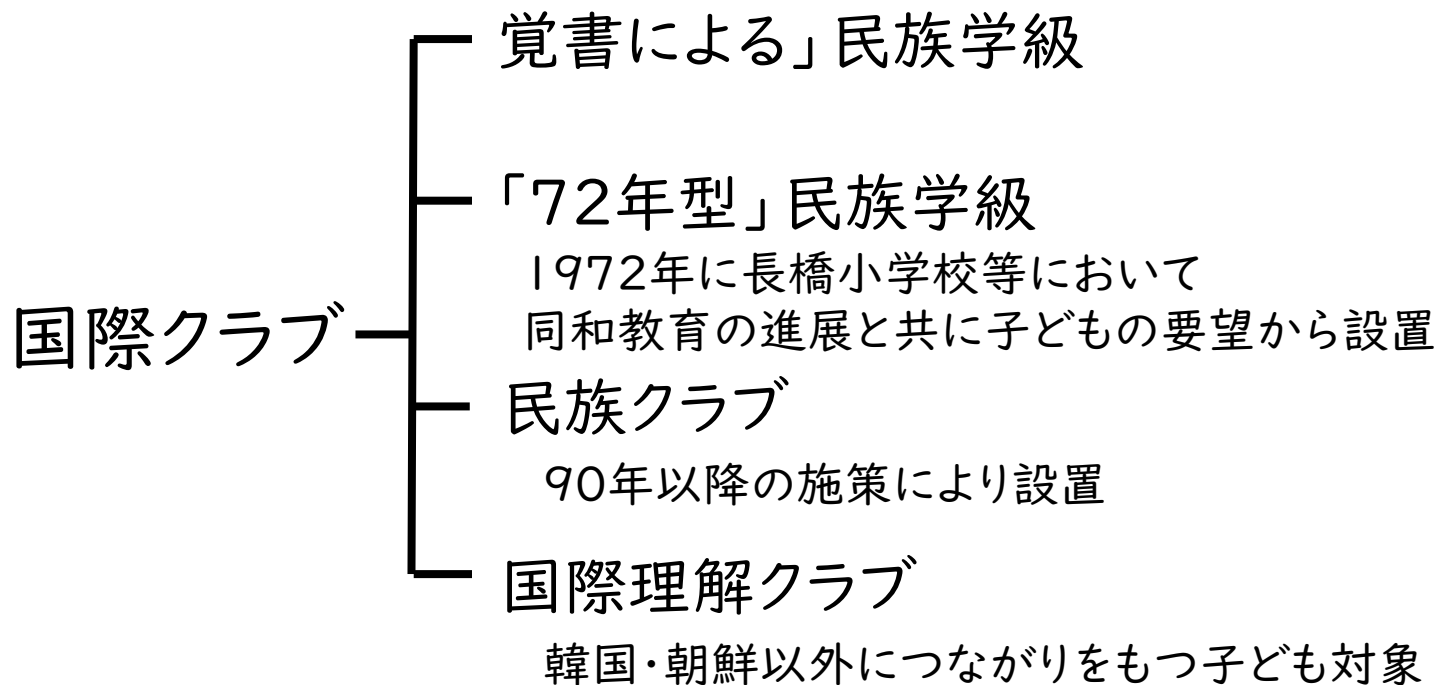


「大阪における外国につながる子ども・若者へのことばの教育実践」

在日コリアンの民族学級設立からの変遷

戦前	同化教育・協和教育
1948年	阪神教育闘争と民族学級の設置（覚書）
1960年代	空白の10年
1964年	大阪市外国人子弟教育研究協議会（市外協／教）発足
1971年	差別事象発生（→72年 再生市外協／教）
1972年	長橋小学校の取組 ムラの子だけでなく・・・民族学級の設置（72年型）
1990年代	民族教育の制度化（民族クラブ） 帰国・来日の子供のための教育施策 開始 日本語指導センター校の設置、日本語指導協力者の派遣、通訳者派遣
2000年代	「在日外国人教育基本方針」（01） 国際理解教育・多文化共生教育への接続

民族学級・民族クラブ・国際クラブ等の現状（各校）



母語保持の取り組みとしての母語教室（ルーツ別）

母語教室の設置

母語を保持・伸長する機会である母語教室を、センター校の担当者が中心となって企画、運営、実施している。母語支援員が講師として関わり、同じ言語を母語とする生徒が集うことで、アイデンティティの確立に寄与できる役割を果たしている。

- ・母語で、母国の文化を学習する場。
- ・ありのままの自分を出せる居場所としての機能。
- ・先輩や仲間との出会いの場

⇒ワールドトーク（多文化スピーチ）

中国語弁論大会

⇒母語作文指導 面接練習

子どもの「母語」保障としてのことばの教育

- ・ 教育課程外での母語・母文化の保持・伸長の取り組み
子どものエンパワメント
- ・ 在日コリアンへの教育を礎とし、ニューカマーも対象として発展
- ・ ソンセンニン（民族講師）やそれぞれの言葉や文化を教える
講師と在日外国人教育担当（外担）による協働

3. プレクラス学習内容に見られる ことばの教育をめぐる連接



「大阪における外国につながる子ども・若者へのことばの教育実践」

プレクラスの指導計画は3種類
(小低・小高・中学)

50時間の内訳（小学校低学年用）

学校生活指導 13時間

教科につながる指導 10時間

日本語指導 14時間（話す・聞く）

(サバイバル日本語)

日本語文字指導 10時間（書く・読む）

(ひらがな清音)

その他 3時間

プレクラス わくわく 指導計画 (小学校低学年用)

記号の見方: ◎ 母語の支援者あり 小学生共通指導内容 わくわく独自学習内容 その他 共通指導案
[学] 学校生活指導 [教] 教科につながる指導 [日] 日本語指導、日本語文字指導 ★ 保護者出席必須欄

	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目
1日目	①★入塾式 【学】 【日】 【合】 挨拶、プレのルール説明、担当者紹介、自己紹介	②おなかが痛くなった 【学】 【日】 トイレの開閉法、からだの部位名称、体調不良時に使用する表現	③挨拶をしよう／持ち物の名前 【学】 【日】 授業の音読、挨拶、寒暖（わかりませぬ）あつま（ありません）／文具の名前	④ひらにゃに親しもう 【日】 （１） 30巻に親しむ、名前の表記練習、数字（０～５）	⑤日本の学校ってどんなところ？（びん含） 【学】 【日】 日本の学校の1年の紹介、自分の経験との比較
2日目	⑥日本の学校生活を知ろう 【学】 【日】 学校の日・きまりを知る	⑦どれかな？ 【日】 身の回りのもの、所有の表現、名前表読理解	⑧ひらにゃに親しもう 【日】 （２） 50巻復習、あい行導入、数字（6～10）	⑨学校探検をしよう 【学】 【日】 場所の名前と建物、あいでず、学校見学・インターホン練習	⑩日本の遊びに慣れ親しもう（どん含） 【学】 【日】 日本の遊びを知る（例：けんだま、あやとり、おりがみ）
3日目	⑪日本の学校でどんなことを学習するのか？ 【学】 【日】 学習する教科や採点する際のしるしについて	⑫算数レディネスを測ろう 【教】 【日】 算数レディネスチェック実施	⑬食う・はみがきについて知よう 【学】 【日】 学校給食・歯磨きについての学習に関連する日本語表現	⑭ひらにゃに親しもう 【日】 （３） あい行復習、か行導入、単語、書く練習、数字（11～31）	⑮みんなどくし運動かんたん体操とボール運動 【教】 【日】 みんなどくし運動かんたん体操とボール運動
4日目	⑯友だちと話そう 【日】 友達と関係をつくるとききの表現をロールプレイで学ぶ	⑰避難訓練をしよう 【学】 【合】 教室内部の火事、地震の避難訓練体験	⑱どれが好き？ 【日】 好きなものを伝える表現なに？どれ？すきです	⑲ひらにゃに親しもう 【日】 （４） あい行復習、さ行導入、単語、書く練習、数字（100とび 20～100）	⑳みんなて遊ぼう（どん含） 【学】 【日】 じゃんけんのルール・じゃんけんをとった遊び・カードゲーム
5日目	㉑ひらにゃに親しもう 【日】 （５） あから、まじり、た行導入、単語、書く練習、数字	㉒わたしのかぞく 【日】 家族に関することば、年	㉓なんががなみにち？ 【日】 日にちに関することば	㉔そうじをしよう 【学】 【日】 掃除活動確認、掃除道具の	㉕みなで、さあ、お節書きをする、動物（切りま



大阪教育委員会

令和3(2021)年3月版

学校の1日	●まを歩いてたんけんしよう	●★ 日直、係活動って何?	●★ 日直、係活動って何?
1日方 下校までの行動を 言	町の方き方、交通ルール、 学校の文を注目して がなし	●★ 日直、係活動の内容を知り、 入りたいもの考える	●★ 日直、係活動の内容を知り、 入りたいもの考える
にたに親しもう 7)	●★ ラジオ体操しよう [日] (合同)	●★ しんぱんふれよう	●★ しんぱんふれよう
は行年、単語、書 数の読み方 (1 2)	●★ 号の復習、ラジオ体操、 体操をかき遊び (船長先生の 年表)	●★ 草や虫などの自然に触れら れ、あります/いますの復習	●★ 草や虫などの自然に触れら れ、あります/いますの復習
数のことば1	●★ [日] 買い物しよう	●★ [日] 学校で替替えよう	●★ [日] 学校で替替えよう
算、分、単位 の、形、一つ二	●★ ものを数える表現 (こ、は ん、の、形、一つ二、買物 で使用する表現	●★ 着脱を伴う授業や場面とその 衣服	●★ 着脱を伴う授業や場面とその 衣服
にたに親しもう 8)	●★ [日] 算数のことば2	●★ [日] 紙をばって描いて みよう	●★ [日] 紙をばって描いて みよう
や行、わを導入、 書く練習、数字の 1000000)	●★ 様子を表す形容詞、算数 で使うことば	●★ 結を組む議員の名前、顔 図り(めくります、こするります)	●★ 結を組む議員の名前、顔 図り(めくります、こするります)
本語で自己紹介し やれよう!	●★ ★ 学校と家庭との連絡 方法	●★ ★ 卒級式 学校	●★ ★ 卒級式 学校
今練習 (これまでの 習得さねて)	●★ 連絡帳、音読カードなどの 活用、書き方	●★ 卒級証書校 自己紹介発表	●★ 卒級証書校 自己紹介発表

プレクラスでの学習内容 50時間内訳

[日]日本語指導

簡単なあいさつや応答表現を中心としたサバイバル日本語。
話す・聞く活動(14時間)

[学]学校生活指導

基本的な学校生活に必要な知識を **自文化** と比較しながら学ぶ。(13時間)



[日]日本語文字指導

ひらがなの清音の読み書き
数の読み
(10時間)

[教]教科につながる指導

主に教科学習で道具を使用する際の使用方法、及び算数・数学の用語等(10時間)

- ・日本の学校ってどんなところ？ 学校の1年間を知る
- ・日本の学校生活を知ろう！ 学校の日、きまり
- ・みんなで遊ぼう じゃんけんの仕方やドッチボールのルール
- ・給食・はみがきについてしろう ・掃除をしよう
- ・日直、係活動って何？
- ・学校で着替えます 体操服、給食着、水着など
- ・学校と家庭の連絡方法 連絡帳の書き方

→ **母語**の支援を得て**自文化に誇り**をもちながら、

時には保護者を巻き込み、**日本の学校への理解**を深める

- ・ 限られた予算 時間 人員で何をどこまでするのか？

「ことば」の教育と共に重視した視点 **個の経験・文化の尊重**

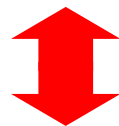
→母語の支援を得て自文化に誇りをもちながら、学びを進める

4. オールドカマーとニューカマーの ことばの教育の接続から見えるもの



「大阪における外国につながる子ども・若者へのことばの教育実践」

小学校低学年「日本語指導協力者による支援」への入り込み



大阪市「加配教員配置校」での小学生への日本語指導

- ・ オールドカマーの教育への教師の関わりとの差異
- ・ 教師としての経験による手探りの授業
- ・ 社会的包摂の前提条件としての「日本語指導」の捉え

「ことば」の教育と共に重視した視点

「子どもの自文化」の尊重とエンパワメント

- ・ 多くの大人が関わる中で
子どもを取り巻く大人自身の「**自文化のこだわり**」
- ・ アイデンティティ、エスニシティの醸成、エンパワメントに欠かせない自文化に「向き合わせる」**パターンリズム**
- ・ 歴史的背景を踏まえた、ルーツ・文化の扱いの温度感の差異

外国につながる若者のエンパワメントをめざす「エンパシード」3年目

目的：学校や地域・世代を超えて、かれらの横のつながりを創る場を提供し、かれら自身の強みの活かし方を共に考える。

…「ことば」（思い・考え・発想…）を大切にする

- ・ 学校外で集まることの困難さはどこから？
- ・ そのもののニーズ「外国につながる」でカテゴライズすること

「ことばの教育」の連接から見えるもの

ことばの教育は、ことばを習得することと同時に、その過程において「**子どもの自文化**」である「**ちがい**」を**尊重**し、エンパワメントすることを重視していた。

- ⇒ 一人ひとり背景や価値観が異なる当事者の声に耳を傾ける
- ⇒ 子どもを取り巻く大人が日常的に**ロールモデル**として
- ⇒ マイノリティの包摂は**マジョリティの変容**から
- ⇒ マジョリティへの教育があってこそその社会的包摂

2025年2月24日（月）
東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット
シンポジウム

パネルディスカッション
「子どもたちの多様性が生きることばの教育
ー社会的包摂を目指してー」

大阪における 外国につながる子ども・若者への ことばの教育実践